

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)

一杯のビールが教えてくれたこと

家族で外出に出掛けた時のことです。運転手の私はウーロン茶を、妻は「たまには飲みたい」とビールを注文しました。しばらくして、店員さんがグラスを運んできました。そしてビールのグラスを私の前に、ウーロン茶を妻の前に差し出しました。「逆なんです」と伝えると、店員さんは少し慌てた様子でグラスを交換してくれました。もしかすると、お酒は男性という思い込みがあったのかもしれませんが。皆さんの身近で、このような思い込みはありませんか。こうした思い込みをアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)といい、誰にでもあり得ることだそうです。例えば「女性に理系の進路は向いていない」「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」「性別によって向き不向きがある」といったものです。私自身、気付かないうちに周囲の人の希望や意欲をそいでしまったり、傷付けてしまっているのでは…



と考えさせられます。

激動の時代に、法曹界での女性活躍を描いたNHK連続テレビ小説「虎に翼」のヒロインの猪爪寅子だったら、女性への思い込みに「はて」と一石を投じるような気がします。思い込みは過去の経験や見聞きしてきたことから生み出されるので、完全に払拭するのは難しいですが、寅子のように常に自身や周囲の言動を振り返り、問い掛けることが大切だと感じます。

さて、8月の「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間に、市内6カ所で講演会を開催します。8月2日(土)には茜が丘複合施設みらいえに「虎に翼」の脚本家である吉田恵里香さんをお招きします。オンライン配信・オンデマンド配信も行いますので、この夏、自身の人権感覚を磨く機会にはいかがでしょうか。



外観



フーコーの振り子中心部



フーコーの振り子は、地球の自転を証明する実験装置です。フランスの物理学者レオン・フーコーが、1851(嘉永4)年に振り子運動を使い、地球の自転を証明しました。播磨内陸生活文化総合センタードゥウジムの敷地にある、鉄球をつるしたこの振り子は、今から44年前の昭和56(1981)年に開催された神戸ポートアイランド博覧会で、川鉄地球館の屋外展示品として造られました。博覧会後、本市が東経135度、北緯35度の交差点がある「日本のへそ」であることから寄贈を受け、昭和59(1984)年に当館の開館に合わせて移設されました。現在、鉄球は固定され、ひっそりとその姿をとどめています。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館(☎235992)

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



今月15日~22日の日程でレントン市を訪問する中学生親善使節団の生徒たち

レントン市訪問再開!! 姉妹都市アメリカ・レントン市とは、昭和62年から中学生親善使節団の相互派遣を行っており、これまでたくさんの中学生在り来しています。初めてレントン市を訪問した中学生は4名でしたが、38年間で訪問した学生は、約400名にも及びます。新型コロナウイルスが世界的に流行して以降は、交流を見送らざるを得ない状況が続きましたが、昨年、遠藤教育長とともにレントン市を訪問し、6年ぶりに今年度から再開することと



西脇市長 片山象三

なりました。6月の結団式では12名の団員の皆さんが、目を輝かせながらレントン市を訪問する意気込みを語ってくれました。現在はVR(仮想現実)・ITにより仮想空間を現実のように体験できる技術)を利用して、自宅にいながら世界中を旅する疑似体験ができます。しかしながら、実際にアメリカを訪れ、アメリカの空気に肌を感じながら異なる文化に触れ、さまざまな経験をすることは、今後の人生観に大きな影響をもたらすと思います。10月にはレントン市のパヴォーネ市長と市民親善使節団が西脇を訪れることも決まりました。本格的な交流の再開です!レントン市との交流の礎を創ってくださった両市のライオンズクラブやロータリークラブをはじめ、多くのボランティアの皆さまに感謝しながら、今後も官民一体となり発展的な交流を続けてまいります。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

「交流農園」から広がるコミュニティの輪

ー芳田自治協議会の紹介ー

芳田自治協議会は、芳田地区の最重要課題である“人口減少・少子高齢化”の解決に向けてさまざまな取り組みを行っています。

その一つとして、果樹や野菜の栽培を通して交流を楽しめる「交流農園プロジェクト」を進めています。地域内外から多くの親子が参加し、農作業や大工仕事をワークショップ形式で体験しています。今年度は参加者からアイデアが出た“ピザ窯作り”を進めており、完成後は、育てた野菜を使ったピザ作りをする予定です。



今後も交流農園を活動拠点とした新たな活動や交流が生まれるよう、日々農園整備に励んでいます。

西脇の自然 617

キツネノカミソリ

ひがんばな科



明るい里山の裾野に自生し、湿気のある明るい場所を好み、野原、道端などに群生します。早春に、その名の由来である髪そりのように鋭く見える細くて長い葉を出します。夏になると葉は枯れてしましますが、地下に球根がある多年草です。

ヒガンバナの仲間ですが、花はお盆のころにオレンジ色で花弁が6枚の花を咲かせます。緑の中に突然現れ、その鮮やかさから目を奪われることがあります。花の高さは30~60センチくらいで、その先端にいくつかのユリに似た花を付けます。

ヒガンバナ同様、有毒植物です。ノカンゾウと間違えることがありますので、誤食しないように注意が必要です。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】